

編集・発行
 (株)農林中金総合研究所 基礎研究部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
 TEL. 03-3243-7331
 FAX. 03-3246-1984
 URL : http://www.nochuri.co.jp
 E-mail : sugano@nochuri.co.jp

調査と情報

めまぐるしく変化する世界情勢の中で最も注目され、世界平和のキーを握っている地域の一つが東アジアである。急速な経済成長を背景にした中国の台頭とWTO加盟により、アジア、特に東アジアの経済バランスは変化しつつあり、世界経済にも影響を及ぼしつつある。こうした中で、南北朝鮮関係、中台関係という長年の懸案がくすぶりつつけているが、この微妙な問題を抱えながらも政治的安定と経済発展を確保していくための前提条件の一つに、東アジアの安定的な食料需給関係の確保がある。

変化するアジアの農業構造と

食生活

我が国では中国からの野菜輸入急増の影響が大きき、これに目を奪われがちであるが、近年、東アジアの農産物需給、さらには農業生産が構造的に変化してきていることを見逃してはならない。すなわち中国では九〇年代には食料増産にともなう過剰基調への移行にともない、穀物からより商品性が高く付加価値の大きい野菜・果樹、畜産へと生産がシフトしてきたが、野菜・果樹等でも供給過剰状態をきたし、我が国や韓国等への輸出増加を招いているのである。これには食料では米を除いて国際競争力を持たない中国農業がWTO加盟に先行して構造改革を推進してきたことも大きく関係している。韓国も中国の輸出攻勢を受けて国内農業が圧迫されており、輸入ものと差別化をはかるため施設化による高品質の野菜・果樹生産に注力しているが、これもまたその一部が日本に向

けて輸出され、我が国市場が東アジアの草刈場の様相を呈しつつあるのである。

こうした背景には農産物過剰により輸出圧力を強めているというだけでなく、開発輸入に見られるように我が国メーカー等が定時・定量・低価格の調達についてはもっぱら中国での生産に依存する構造が確立しつつある。ここには農業労働力の高齢化にともなう将来にわたるの担い手確保についての不安という、我が国の国内事情が横たわっている。

また、各国の米消費量減少に端的に象徴される食料消費構造の変化も影響している。国民一人当り米消費量減少は、東アジアに共通した傾向であり、日本五九・四kg(二〇〇〇年、精米ベース。以下同じ)、中国九〇・一kg、韓国八九・一kg、台湾に至っては五四・九kgにまで低下している。伝統的な食生活は洋風化しつつあり、我が国と台湾がその先頭を走つているのである。

東アジアでは恒常的な食料不足を抱える北朝鮮が存在する中で、その他各国は過剰基調を強め、競争を激化させながら食料供給の相互補充関係を形成しつつある。加えてアメリカ、ケアンズグループからの攻勢も激しい。日本農業は多品種少量生産、集約農業を基本とした地域農業に徹底的にこだわっていくことが原点であり、国際備蓄、農産物の工業的利用等も念頭におきながら、競争と協調をすすめていくしかないと考える。

(常務取締役 蔦谷栄一)

今月のテーマ：アジアの農業構造

変化するアジアの農業構造と食生活	1
インドネシアにおける農業構造変化と農村地域の存続	2
インドの最近の穀物需給事情	3~4
中国野菜残留農薬問題	5~6

ぶっくレビュー『食卓に毒菜がやってきた』 ...	7
あぜみち	8
フードシステム	9
統計の眼「前年割れが続く冷凍野菜の輸入量」...	10
編集後記	10